



山口さんさの華やかで軽快な舞い

9月定例会 予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会（議長を除く19人の議員で構成、委員長は多田誠一議員、副委員長は荒川栄悦議員）は、条例6件、予算8件、その他1件について付託を受けて2日間の審議を行いました。今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全15議案が原案のとおり可決されました。

**認定こども園施設整備
促進事業費の詳細につ
いて**

問 市内の私立幼稚園が新設する保育施設への補助金算定根拠と今後の見通しは。

答 子育て支援対策臨時特例交付金によって、県に設置された安心こども基金を活用して、設置者に対し補助金を交付する制度を活用するもので、各市町村等で認定こども園の整備が必要な場合、その基金から事業費の二分の一、市町村が四分の一、合計四分の三を設置者に補助するものである。市内のもう一方の私立幼稚園では現段階における整備計画はない。この事業の背景には近年出生率はそれほど伸びていないが、特に3歳未満児の入所希望が多く、待機児童も増加している実情であり、保護者のニーズに応えるためにも整

備が必要と考えている。

農畜産物放射能被害対策交付金について

問 特別枠で予算化された5千万円の活用状況は。

答 6月に補正された。委託料として77万円、牧草焼却に関わる運搬委託費として17万円、今後予想されるものとして乾しいたけの一時保管場所への集荷、ホダ木処理に1千万円程度予定している。焼却処分牧草の調査費を含め、1,250万円程度予定している。

問 5千万円予算化して、執行した金額が1,250万円ということか。緊急度合いが高い予算措置として決議した訳だが、今後どのように執行されるのか。

答 畜産・しいたけに関する課題が多く、それに関する制度が整いつつあり、随

時執行していきたい。

問 機動的な予算措置であるとするれば、販売できなくなったものに対し、その販売額を確保し、所得補償する※デカップリング政策をすべきと考えるが。

答 農家への所得補償については、畜産・しいたけ・野菜など、大きな問題として受け止めたい。

問 現実の問題として、一度除染した土地が十分除染されなかったり、除染作業中のロータリー耕の破損事例も多く出ている。これらへの対応も今後出てくると思われる。農業者が再生産を諦めることが一番危険であり、あらゆる第一次産業に波及しては困る。この所得補償は、一時的な支出であり、必ず取り返せるものであり、こうしたことを実行することが第一次産業を強く標榜する遠野市の姿で

あってほしいと思うが。

答 農地が荒れれば、永遠のふるさと遠野が大きく崩れると思われる。農地を守り、農家の生産が低下しないよう、真剣に取り組みたい。

宮守地域農業振興拠点施設整備について

問 宮守総合センター跡地に新築移転するJA花巻宮守支店の事業費の一部として、2,500万円を支援する理由は何か。この支援は、地元企業や商店との競争原理を歪めかねないので。

答 JAの当初計画は、一階部分に事務室のみ新築ということだったが、JAとの協議により、二階部分に農業振興拠点施設を設けることとした。これは、地域農業の活性化及び農家の支援・指導・育成のために、JA営

※デカップリング政策とは、…一般的には農家に対する「直接的所得補償政策」として使われている言葉